

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学概論		講義	荒木 金隆	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>病理学とは病気の原因やその成り立ちを理解する学問です。本授業は病気の成り立ちを幾つかのカテゴリーに分類して講義を行います。人間の生理機能との関連において病気の本質を知り、病気の病因やその病態及び病気相互の関連について理解できるようになることを目的とします。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 様々な病気で共通する病理学的変化を理解することができる。 2. 代謝異常、循環障害、免疫、炎症、腫瘍について概略説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	病因論：内因 外因 及び内因の中で特に内分泌疾患の概要			
2	先天異常疾患：染色体 遺伝子の異常 環境要因			
3	先天異常疾患各論：神経系及び筋肉系			
4	退行性病変 進行性疾患：変性 萎縮 壊死 アポトーシス 再生 化生 肥大及び過形成			
5	代謝異常(1)各論を含む 蛋白質 脂質 糖質代謝異常の概念と関連する疾患			
6	代謝異常(2) カルシウム 銅 鉄 ビリルビンの代謝異常			
7	循環障害(1) 充血 うっ血 虚血 出血 浮腫			
8	循環障害(2)各論を含む 血栓症 塞栓症 梗塞 虚血性疾患の概要(含む心電図の見方)			
9	循環障害(3) 高血圧 肺高血圧 側副循環(門脈圧亢進症) ショック			
10	免疫：免疫の概念及びその成立について			
11	免疫各論：アレルギー性組織障害 自己免疫疾患(含む膠原病) 免疫不全 拒絶反応を含む			
12	炎症：炎症の定義 炎症に関与する細胞 急性と慢性炎症の比較と病態			
13	感染症概要：病気の外因としての生物学的要因 (パワーポイント使用)			
14	腫瘍総論：良性と悪性 発生母地と分化度 (パワーポイント使用)			
15	腫瘍各論：各部位の腫瘍 特に脳腫瘍			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90～100%			
レポート				
小テスト				
平常点	0～10%	客観的に明らかな状態(欠席や授業態度など)は考慮する。		
その他				
自由記載	平常点については教務と相談する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 4版	梶原博毅		医学書院	
自由記載	講義資料を配付する。循環器(心電図)、感染症及び腫瘍はパワーポイントを使用する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
新看護学2 専門基礎「2」 第13版	坂本穆彦		医学書院	
PT・OT 基礎から学ぶ病理学ノート	中島雅美		医歯薬出版	
自由記載				
備考				
基礎医学故、臨床との繋がりが分かりづらいと思うが、将来のためしっかりと学習されることを希望する。				